

## 第2次岐阜県教育ビジョン検討委員会

### 第2回 小・中学校における学力向上専門委員会 主な意見

H25. 5. 28(火) 14:00~16:00 第3面会室(議会東棟2階)

#### ◆◇基礎学力定着支援事業 指導改善実践校の取組発表について◆◇

- ・児童のテスト結果のみだけでなく情意面に目を向けていくことは大事なこと。情意面についてのアンケートを、授業づくりや個へのきめ細かな指導・援助に生かしていくことが大切である。
- ・授業は45分と限られている。課題化や課題追究、話し合い等の場において、大事なこと、大切にしたいことをそぎ落とすことなく習熟を図る時間等の確保につとめたい。
- ・教材・教具や指導方法等の工夫については、発達の段階を考慮することが必要である。
- ・実践研究において、取組に困難が伴うと成果が他校へ広がらない。また、自校でも成果が継続しない。
- ・指定校等での実践研究は、研究成果が自校で確実に継続されるように、他校へ拡大されるように実践を進めまとめたい。
- ・「わかった、できた」の経験から児童の取組は変わってくる。

#### ◆◇協議での主な意見◆◇

##### ①学力向上の取組の自校における継続と、他校等への拡大(実践の普及)について

- ・きめ細かな調査による一人一人の児童生徒の実態把握、個々のつまずきの分析、個の実態に応じたきめ細かな指導等について、あまりにも細かすぎると、実践が広がらないのではないか。

##### ②情意面の評価について

- ・児童生徒の情意面を大切にし、「わかった、できた」の体験を重ねることが大事である。

##### ③「習熟度別少人数指導」について

- ・つまずきを見付けてどのようにアプローチするのかが大変。それ以上に、つまずきが予想されるならば、つまずかないような授業、指導を工夫することが大切なのではないか。そのための習熟度別少人数指導ではないか。

##### ④バランスのよい指導について、

- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得に焦点をあて、そればかりをねらいとした授業ばかりになってはいないか。

##### ⑤仲間づくりについて

- ・仲間に説明し、話し合っていく中でわかっていくことも多い。
- ・授業を通して仲間づくりを進めていく。学び合いながら進める学習は集団づくり・人間関係づくりの根本である。

##### ⑥県民総参加教育について

- ・岐阜県らしい。地域との連携、学校だけではなく一般行政を含めた「できた、分かった」の体験を大切にしたい。